

ホップ・ステップ

ツープロック禁止で主体性が養えるか？

偏差値で異なる校則の「矛盾」

都立高校でツープロックを禁止する理由について、東京都教育委員会での答弁が話題になった。黒髪、制服、ヘアスタイル、下着の色まで細かく定められている学校は多い。かたや、名門麻布中学・高校には金髪に染めた学生がいてもいいというのがある。校則とは何か。誰のためのものか、何を目的としているのか。ジャーナリスト鳥沢優子さんの連載「子育てアツプデート」子どもを伸ばす親の条件」で、その問題点を分析する。

炎上した「ツープロック禁止」の理由

毎日、本当に暑い。「暑いから、髪形をツープロックにしようかな。涼しいし」と息子が言い、家族は皆賛成する。中高年の夫が「俺もツープロック……」と言いかけるが、皆「ない、ない、ないわー。似合わない」と止める。「人権侵害だーっ」と叫ぶ夫に、皆笑う。これは家族内のジョークだが、高校生はこれを校則で禁止されている。この7月、共産党都議団の池川友一都議が、都立高校でツープロックを禁止している理由について東京都教育委員会の藤田裕司教育長に尋ねた議会委員会での答弁が話題になった。「外見等が原因で事件や事故に遭うケースなどがございまして、生徒を守る趣旨から定めているものでございまして」といいます。また、「ございまして」と、言葉は過度に丁寧だが、校則の定め方はあまりにも乱暴ではないか。答弁した動画はツイッターで4日間に実に600万回近く再生され、「事件や事故に遭ったケースを教えて」「根拠を示せ」と大いに話題になった。テレビやネットで、ツープロック禁止は「ブラック校則」として取り上げられ、都立高校に存在するほかの理不尽な校則も次々伝えられた。私の記憶に残っているものを並べてみよう。

- ・生まれつき髪の色が明るい生徒に自毛の色を届けさせる。ベルトは黒の無地で革製でないといけない。
- ・テスト中の膝掛けを禁止。学校に家からカップ麺を持ち込み、お湯を注いで食べてはいけない。制服でのメディア出演禁止。――「自毛証明書」の発行がまだに続いていることや、カンニング予防の「テスト中のひざ掛け禁止」など、生徒を信用しない学校側の姿勢からくるものが多い。

教員も疑問を感じる「髪型校則」

学校現場の頭髪指導をめぐっては17年、大阪で府立高校3年だった女子生徒が地毛の黒染めを強要されて精神的苦痛を受けたとし、約220万円の損害賠償を求めて大阪地裁に提訴したことで注目された。ヘアケア商品などを販売するプロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン(P&G)は、社会全体で学生の個性の尊重について考える広告キャンペーン「#この髪どうしてダメですか」に合わせ、中高生や元中高生の成人、教員を対象に「髪型校則に関する調査」を実施。結果は19年3月に発表されている。中高生と元中高生の成人約600名のうち、

13名に1名が学校から地毛の黒染めを促された経験があると回答したことは驚きだったが、より印象に残ったのは教員の意識だった。中学校・高等学校の現役教員400名の70%が「髪型校則に疑問を感じたことがある」と答え、「時代に合わせた髪型校則も変わっていくべきか？」の設問には実に87%が賛同している。このあと、市民運動家や地毛の黒染め指導を受けた経験がある大学生らが発起人となり、ノーマアブラック校則の署名活動が行われ、指導の中止を求める要望書と約2万人分の署名を都教委に提出された。ちょうど1年前の今頃の話だ。当時の報道によると、受理した都教委高等学校教育指導課課長は「生来の頭髪を一律に黒染めするような指導は行わない」と述べたが、考え直したのは髪色のみだったのか。髪型(ツープロック)への干渉についてはスルーしたようだ。

偏差値の高い学校はゆるいの？

19年5月の朝日新聞の報道によると、18年度まで都立高校の6割で「地毛証明書」が発行されていた。生まれつき髪の色や髪のカールを証明しておけば、生活指導上不備が起きないことだろうか。私には、地毛証明書も、ツープロックも、大人が子どもを信用していないこと表れに見える。なぜそう見えるかというと、18年に都立高校の制服化が進んでいるというテーマの記事を書いた際、高校生の意見をたくさん聞いた。彼らはこう言った。「偏差値の高い学校はゆるいの？、低い学校は厳しいんだよね」「学力が高いと自由が与えられて、低い生徒は信用されず自由を奪われるんだよね」やはり、そう感じるか。無理もないと思った。調べたら、都立高校普通科全日制で、制服のない「私服校」は当時10校あった。国立、西、戸山、立川、武蔵、町田、北園、豊多摩、井草、田園調布。いずれも偏差値が70超から60前後と、いずれも学力の高い学校ばかりだ。さらに、標準服はあるけれど私服で通学できる「標準服校」は9校。こちらも、青山、新宿、駒場と、高偏差値校が多かった。前述の「偏差値が低いと校則が厳しくなる」「学力が高いと自由が与えられる、低いと奪われる」とため息まじりに話してくれたのは、偏差値が50以下の学校の生徒たちだった。彼らは、大人が自分たちを圧迫することで管理しようとしていることをわかっているのだ。

自分を信じない大人を子どもは信じるのか

自分たちを信じない大人を、子どもは信じるのか。敬うことができるだろうか。数年前、制服のない都立高校に入った長男の入学式に出たら、校長先生が諭すように言った。「校則のない自由をかみしめて、3年間過ごしてほしい」文化祭や体育祭は頭が金髪や茶髪に染まる。クラス別のチームカラーの色になるぶつ飛び系もある。ところが、イベントが終了すると黒に戻る。なかでも3年生は直後に修学旅行で沖縄に行くため、社会科教員は「(神聖な)ガマに入るんだからね」とそれとなく黒染めを促す。だが、

生徒はそれを納得しているから「強要」にならない。そもそも、何かを強要することは、生徒の主体性を生まない。少し古いデータで申し訳ないが、16年にリクルート進学総研が全国の全日制高校の進路指導担当の教員に対して調査を行っている。「将来、生徒たちが社会で必要とされる能力は何か？」教員らが挙げた上位三つは「主体性・課題発見力・実行力」だった。ところが、教員に「実際に生徒が持っていると思う能力」を尋ねると、「規律性・傾聴力・柔軟性」がトップスリーに挙がった。つまり、教員は生徒を「自分で考えて動けるようにしたい」と思っているが、なかなかそうならない。「規律を守り大人の言うことをよく聴く生徒」が育っているのが現実だ。このことは、自由がなく、意味のない、理不尽なブラック校則が大きく関わっていると考える。

生徒の話も聴くことは甘やかすことじゃない

こんな話がある。私は筑波大学体育専門学群現・筑波大学体育系を卒業した。当時は、前身である東京教育大学の流れが色濃く、同級生の多くは教員になった。全国に散らばった同級生たちの多くが管理職になっている。データはないが、どの先生に尋ねても「保健体育教諭だった校長先生は多い」と聞く。上下関係の経験があり、リーダーシップがあるからだという。同級生のひとは、岡山県のいわゆる「底辺校」と言われる高校の校長をしている。「家庭教育が廃れた実際の現場は大変だった。説教して、縛ってダメなら排除もやむなしと思ったが、数年経ってそれは間違っていたとわかったよ」彼によると、校則違反をしたり、手に負えない生徒を次々と退学したら、その元生徒らが退学後に罪を犯すことに気づいた。警察から在籍確認や調査が次々と入り始めたからだ。「数年経つてようやくね、高校が最後の砦だと気づいたんだ。そこで、まずは生徒の話も聴くことから始めた。学校が落ち着いたんだ」最初は、教員から泣きつかれた。「校長、こんな甘いことではないんでしょ？」「指導しなくていいんでしょ？」「傾聴することを、教員らは「子どもを甘やかす」ととらえていたのだ。だが、わが同級生は「そうじゃないよな？おまえ(鳥沢)ならわかるだろ？俺は、先生たちに、話を聴いてやれ、聴いてやれって、ずっと言い続けた。ただそれだけなんだよ」ただ「聴く」。それだけで、子どもは落ち着いていった。傾聴すべきは大人の側だと言うのだ。私たちの社会は「互いの個性を認め合おう」と多様性を推進する一方で、個を認めない。学校の中でブラック校則という大きな矛盾がむき出しになっただけで、大人は誰一人それを是正しようとしていない。生徒に「どう思う？」と尋ねもしない。押し付けて、圧迫しておきながら、「自分で考える力を育め」。それだ、と、「ない、ない。それはわかんない」と、生徒は言いたいだらう。10代の感性は「矛盾」に対し、強い嫌悪感を示す。だが、それが成長の起点のはずだ。

3年前、大阪の女子高生の勇気から始まったブラック校則問題を、このまま終わらせてはいけない。学校や保護者には、圧迫指導は時代にそぐわないことをどうか知ってほしい。

現代ビジネス 8・17

混沌としたグローバル化やIT技術、AI技術の導入により社会は大きく変化しています。そして何より2020年の4月には18歳が成人となります。このような新しい時代を生きていかなければならない中高生、とりわけ高校生を未だに制服、校則でしばりつける教育にどんな意味があるのか理解に苦しみます。

生徒の偏差値が高い学校には校則がなく、低いと校則で縛る。恐れずに言えば、問題なのは生徒を信用せず、何も変えようとしていない校長をはじめとする教員の偏差値が低い学校なのではないかと思えますが……

30	水	富原定期	29	火	桜中定期(30)	28	月	休塾	27	日	休塾	26	土		25	金		24	木	景雲定期(25)	23	水		22	火	秋分の日 休塾	21	月	敬老の日 休塾	20	日	休塾	19	土		18	金		17	木		16	水		15	火		14	月		13	日	休塾	12	土		11	金	●漢字検定	10	木	◆学力Aテスト	9	水		8	火		7	月		6	日	休塾	5	土	◆学力Aテスト対策	4	金		3	木		2	水		1	火	湖陵・江南(1) 北陽(1) 東(1) 定期
----	---	------	----	---	----------	----	---	----	----	---	----	----	---	--	----	---	--	----	---	----------	----	---	--	----	---	---------	----	---	---------	----	---	----	----	---	--	----	---	--	----	---	--	----	---	--	----	---	--	----	---	--	----	---	----	----	---	--	----	---	-------	----	---	---------	---	---	--	---	---	--	---	---	--	---	---	----	---	---	-----------	---	---	--	---	---	--	---	---	--	---	---	------------------------

携帯・スマホ持ち込み禁止！

ストップ 過保護・過干渉！

一日に一度、R-GROUPの確認をお願いします。

9月の予定

悩める親へ育児本出版 精神的距離、「今の親子は寸詰まり」 小児科医・松永正訓さん

「今の親子は寸詰まっている」。小学館ノンフィクション大賞受賞の医師、松永正訓さん（58）が面白い言い方をした。寸詰まりなんて表現、久しぶりに聞いた感じがした。新著「小児科医が伝える オンリーワンの花を咲かせる子育て」を出したばかりの小児科医に、育児のあり方を聞いた。



「毎日、クリニックで診療していると、親と子の精神的な距離がすごく寸詰まりになっていて、子への愛情が強すぎると感じる」。ひどい虐待も報じられるが「あれは例外中の例外。今の親はもう必死に子育てしている感じ」。寸詰まりだと、あそびがない分ポキッと折れそうだ。

小児科が専門の松永さんは大学病院での勤務医時代から開業医の現在まで33年、子供を診てきた。「僕が子供だった昭和40年代は3人、4人の兄弟姉妹はいくらでもいたし、親は子を放りっぱなし。でも今は大体が一人っ子か2人で『こ

んな軽い病気でクリニックに来るの?』と思うほど、親が何でもかんでも医者の助言を求めたがる。英語にスイミング、ピアノと競うように習い事に通わせる必死さが、見ていてきつと感じます。もっと楽に自由でいいと言いたくて、この本を書きました」

松永さんの言う「必死さ」とはどんな感じなのか。「リカちゃん人形で遊んだ世代が親になって子供をいじくりまわし、教育、知育いろんなことを試してる。でも、**子供はいじめればいじるほど真っすぐに伸びないと僕は思う**。本を書く前に書店の子育て本コーナーを見てみたら、東大に子供を入れるとか、英語をしゃべれるようにするとか、最高の頭脳にするとか、ビジネス本みたい。**子供4人を東大理Ⅲ（医学系）に入れたという本もあって、そんなに頭がいいなら、子供のほうも従順に東大になんか行くなよって言いたくなる。しかも理Ⅲなら医者にしかなれない**。

確かに、親としたら4人がみな理Ⅲではちょっと残念な感じだ。誰ひとり、例えば芸術系などへと外れていけないのが奇妙でもある。大学入試で問われるのは、松永さんの言う頭の良さより、多感な思春期に無味乾燥な受験術にはまれる能力なのだろう。過去にもこうした親は結構いたが、本を書くということはなかったので、確かに時代は変わっている。

「読んでみるともう、まったく共感できない。子育ての知恵もよくわからない」と言い、「それよりも僕が言いたいのは、そんなことは人生の目標にならないってこと」と話題を転じた。「僕の価値基準からすると、自分の子を東大に入れるのは人生の目標にはならないし、子供の目標にさせるのもどうかと思う。僕は重い障害を持った子や小児がんの子を診てきましたが、**どんな星の下に生まれてもその子なりの幸せは必ずある**。だから偏差値を競う子育て本とは全く逆の本を書きたかった」

優秀な夫婦の子がさらに優秀な人と結ばれてもく超人みたいな優秀な子孫が生まれるかという、それはじつは逆です。優秀な性質は段々薄まっていき、平均値に近づいていくのです。<私には医学部の同級生が120人いますが、どんな子どもが生まれたかは本当にさまざまです>などと、結構身もふたもないことを書いている。

執筆のもう一つの動機は、発達障害の子を持つ親に助言をしたいと願ったことだ。「なぜ、こんなに多いのかっていうくらい多い。中には明らかに重度の知的障害があって、5歳になっても言葉が全然出てこず、僕の診察室に入るなり走り回り、電子カルテのキーボードをバンバンたたきまくる子がいます。自閉症スペクトラム障害にADHD（注意欠陥多動性障害）が混ざっていると一目でわかる。両親はため息をついて『どうしついたらいいかわかりません。宇宙人みたいで』と言う。一人の患者さんにかかる時間は限られているので、文章で助言できたらと思ったんです」

発達障害の英語名は「神経の発達障害」であり、自閉症スペクトラム障害とADHD、学習障害を含んだ総称だ。実数が増えた、単に病名が知られ診断を受けにくる人が増えた、などと諸説ある。松永さんは「**発達障害は通常学級の6.5%、15人に1人ぐらいはおり、年々増えている**と思う」とみている。この分野で最先端の米国の主な専門書によれば、20年前はその数字は5%で、40人学級に2人とされていた。ところが松永さんが挙げた数字はこれより多い。「僕が開業した14年前はこんなにいなかった。**社会の寛容さが昔に比べ損なわれつつあるので、少し変わった子が目立ってしまうというもある**。“異物”としてザラザラしてるものが認知されやすくなってるんです」。

松永さんは発達障害が専門ではないが、クリニックに来た子を診て「僕の方か

インタビューに答える松永正訓さん＝東京都千代田区で20.6.24、宮間俊樹撮影

ら『発達障害では?』と声をかけることが多い」。診断を下すのは早いほどいいからだ。そうでなければ親は周囲からしつけの問題として責められ、その子に抑うつ状態などさまざまな2次障害が出ることもあるからだ。障害とわかれば親の対応も具体化する。

「自閉症スペクトラムは1歳半健診の段階でわかり始める。発語や指さしができるかどうか大きい。子供は何かに興味を持つとお母さんの顔を見て指をさすが、それができない。あとは何かへのこだわりで、具体的な物や動きに執着し反復し続ける。そういう時は親に声をかける。ADHDの場合、診断は5歳にならないとつけられない」

それぞれの障害に応じ、例えば「他の子供に興味がある」など診断項目を親にチェックしてもらい、松永さんが最終的に診断し、親に市の療育センターや療育施設を紹介する。本来は大学病院や子ども病院の精神科が診断するが、医学でも新しい領域で医師の数が少なく、松永さんのようなクリニックが窓口になることが多い。

親の反応はさまざまだ。「明るく受け止める人もいれば、大泣きする夫婦もいる。『こんなのは病気じゃない』と言って受け入れずクリニックに来なくなる男親もいます。障害者手帳などを受けたら伸びるものも伸びないと言って抵抗したり」

なぜ子供の障害を認めたがらない父親が多いのか。
「概して男って勝ち負けにこだわるじゃない。人生勝ち続けなきゃ、みたいに。子供が障害児だと自分が負けたような気になるんじゃないかなあ」

松永さんは本の末尾でわが子に伝えたいこととして**<子どもたちが自ら選択した道を自由に歩いていってくれたら親としてとてもうれしく思います>**と記す。そして、**努力する自分のく姿を自分の子どもたちにいつまでも見せつづけるというのが、私の理想です**>とも。

こうは思ってもなかなか書けるものではない。そう水を向けると「いや、僕は昔から理想主義者だし、娘2人への僕の遺言みたいなものだからね」。それなら直接言えばいいじゃないですかと進言すると「いや、それはちょっと恥ずかしいじゃない」。書く方が恥ずかしいのでは? やはり松永さん、ちょっと変わった面白い人だ。

【藤原章生】 毎日新聞 2020年7月28

休業者が過去最多、忍び寄る貧困 経済雇用をコロナ直撃

国内雇用にも新型コロナウイルスの影響が鮮明に表れてきた。緊急事態宣言で経済活動が止まった4月、有効求人倍率と完全失業率は共に悪化が進み、休業者は過去最多まで急増。5月以降はさらに経済・雇用への打撃が加速しており、専門家は「本当の危機はこれから」と警鐘を鳴らす。

新規求人数は過去最大の下げ幅

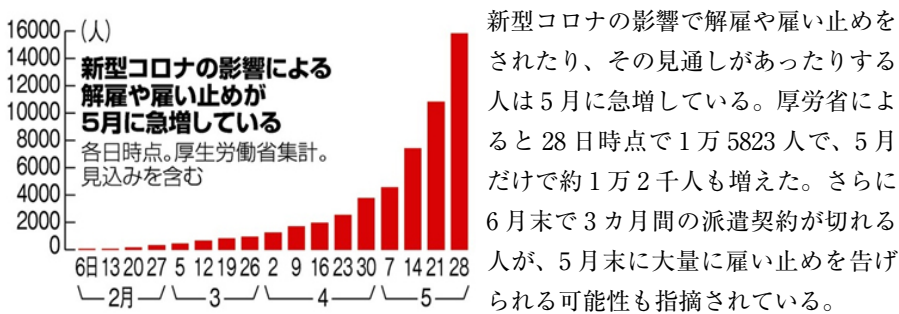
厚生労働省の29日の発表では、求職者1人に求人が何件あるかを示す有効求人倍率（季節調整値）は前月より0.07ポイント低い1.32倍で、4カ月連続で下がった。就業地（実際に仕事をする場所）別では全国で1倍以上だが、求人票などの受理地別では、沖縄県が0.91倍に悪化。2016年9月以来、3年7カ月ぶりに1倍を割る地域が現れた。

新型コロナは、宿泊や飲食サービスなど多くの産業の採用意欲をそいでおり、全体の新規求人数は前月比22.9%減。統計を始めた1963年以降で、過去最大の下げ幅だった。

総務省が29日発表した4月の完全失業率は2.6%で、前月比0.1ポイント上昇。完全失業者は178万人で前月から6万人増えた。雇われて働く人は5582万人（原数値、役員除く）と前年同月より34万人減った。正社員は増えたが、非正規の働き手が前年同月より97万人減り、このうち女性が71万人と男性の3倍近くを占めた。外出自粛などで求職活動を控えた人も多かったとみられ、「数値上、悪化は小幅にみえるが、実態はもっと悪いとみるべきだ」とニッセイ基礎研究所の斎藤太郎・経済調査部長は指摘する。

会社から仕事を休まされた人や事業を休んだ自営業者などの休業者は597万人に。前年同月より420万人多く、リーマン・ショック直後のピークだった153万人の約4倍に上り、過去最多を記録した。これらの人たちが職場に戻れなければ、さらに雇用情勢は悪化してしまう。（滝沢卓）

5～6月、大量に雇止め・解雇のおそれ



朝日新聞 DIGITAL 5.30 滝沢卓 佐藤英彬、稲谷真司 吉田貴司、岡林佐和
この影響は大きく、この先社会も経済も大きく変化するはず。その影響を受けるのが、今、中・高・大学生の皆です。特にいま高1の人は2年後成人ですよ！